



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2019年12月1日

№. 67

動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。
主に結ばれているならば自分たちの苦勞が
決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずで
す。
コリントの信徒への手紙一 15章58節



礼拝献花より

神と共に 人と共に

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『命をかち取る』

牧師 佐藤和宏

ルカ21章5節〜19節

教会暦の最後の日曜日である今日、主イエスは、日課を次のように結んでおられます。「忍耐によって、あなたがたは命をかち取りなさい」。

「忍耐」という言葉から、私たちは人間の努力にすべてがかかっていると理解するでしょう。そうなるとその人がいかに忍耐強いかが、命をかち取る力ギということになります。

「忍耐」と訳されているギリシヤ語に注目すると、私たちはこの箇所を誤解して読んでいることに気づかされます。忍耐と訳されているのは、「ヒュポモネー」というギリシヤ語です。これは「ヒュポ」と「モネー」という、2つの言葉からなる合成語です。最初の「ヒュポ」は「〜のもとに」、それに続く「モネー」は「とどまる」という意味をそれぞれ持っているのです。そして「モネー」は、ヨハネによる福音書15章で「わたしにつながっていないなさい」「わたしの愛

にとどまりなさい」とある箇所です。「つながる」「とどまる」と訳されているギリシヤ語の派生語になります。

このように「ヒュポ」と「モネー」2つの意味からするなら、今日「忍耐」と言われていることは、私たちの努力について、私たちの頑張りについて言われているのではないのです。そうではなく、「忍耐によって命をかち取りなさい」とは、「〜のもとにとどまって、命をかち取りなさい」と命じられているのです。つまり、私たちが「命をかち取る」ために求められているのは、私たちの忍耐でも、頑張りでも、能力でもなく、私たちが何のもとにとどまって生きているか、このことなのです。

先ほど少しだけ触れたヨハネによる福音書15章は、今年の全聖徒主日礼拝の日課でした。その日の説教で「つながる」「とどまる」ということについて、「キリスト教信仰はネコ型」で、「私たちが神にしがみつくのではなく、神が私たちをとらえてくださる」ということに触れました。そして、「わたしにつながっていないなさい」「わたしの愛にとどまりなさい」とは、私たちが頑張ってつながるといふこと

なのではなく、イエスが私たちのもとに来てくださり、私たちと同じ人間となり、私たちにつながっていただく「ことであると申し上げたわけです。

以上を踏まえて、もう一度、先の「忍耐」と訳されたギリシヤ語に目を向けますと、私たちが「〜のもとにとどまって命をかち取る」のですが、それは私たちの努力ではなく、能力でもなく、ただ主イエスにあつて、キリストの十字架によって、私たちの努力や行いに一切依らずに、私たちは「神のもとにとどまる」一人ひとりとされている、このように今あなたは生かされているということなのです。こうして私たちは、小さく、弱者でしかなくとも、「命をかち取る」者とされるのです。さらにより正確にいうなら、キリストの十字架によって「かち取られた」新しい命に生き始める者とされているということなのです。

日々の生活の中で、私たちは「この世にとどまって生き」ていると言えるでしょう。「この世にとどまる」限り、人は将来を案じ、不安になり、この世的な事柄にとどまって、安心

を得たいと願うことでしょうか。この世的な事柄に解決策を求めてしまうでしょう。私たち教会も「この世にとどまる」限り、人数であったり、財政面であったり、目に見える結果、成果に心を奪われ、将来的な不安を覚えることでしょうか。しかし今日、私たちは、「神のもとにとどまって」生きる群れとされている、このことを思い起こすために、礼拝の場に集められたのです。「この世にとどまって生きる」だけの命は、ただ人間的な不安や恐れを与えますが、「神のもとにとどまる」命は、神の約束に希望をもって生きることができるようです。神が私たちをとらえて、決して放されません。どれほど私たちが神を忘れても、どれほど私たちが小さく、もろく、弱くても、神はその私たちを決して放されません。その命に今、私たちは生かされているのです。この神に希望を抱いて、この神にすべてを委ねて、今を生きる群れ、これが私たち教会なのです。そして、これこそ神がイエス・キリストの十字架によって「かち取ってくださった」命に今日も生きるといふことなのです。

(聖霊降臨後最終主日)

■投稿 首里城全焼の悲しみ

①

○藤○子

沖縄……。それは海外、遠い所、私の頭ではとても行けない所としか考えがなく、沖縄についての知識は全くなかった。

それが高津区民懇話会の委員をしているとき、溝ノ口在住の有名な画家が、多数集めていた琉球漆器を、沖縄浦添美術館へ寄贈することになり、その前に区民のみなさんに展示した。そのとき少々手伝いをしたのだが、その縁で沖縄に行く機会に恵まれた。

平成5年2月18日～21日、3泊4日の沖縄旅行、区民懇の仲間と当時高橋市長の手紙を持ち、浦添市長を表敬訪問、そして市内観光であった。18日、羽田を発つときは、気温は11度でブルブルの寒さだった。8時30分発、11時15分予定通り那覇空港に着く。快晴、気温は23度、歩いていくと暑くなり、1枚、2枚と脱いで歩く。重ね着をして来て良かったようだ。「メンソール！」（いらつしゃいませ）。ガイドさんの元気な声に迎えられるバスに乗る。

昼食会場へ向かう道中、有刺鉄線

が張られた防御柵が、行けど行けどずーっと続いている。米軍基地だ。基地の中は広々と整地され、緑の芝生が美しい。日本国内の米軍基地の70%が沖縄にあるという。

基地の近くの東南植物楽園へ案内される。40万㎡の広い園内には、とっくり椰子や、ハイビスカス、ブーゲンビリアなど花々が溢れ、まさに植物のパラダイス。日本列島は真冬なのに、ここは別天地のようだった。うっとりとしてガイドの説明を聞いていると、黒い不気味なグラマンが低空で飛んで行った。すごい爆音に話は中断される。1日に何度もタッチアンドゴーが続くという。ここは戦後の安らぎがないようだ。

翌日、川崎市長の手紙を持ち、浦添市長表敬訪問のため市役所へ行く。広い建物の奥まった所の応接室に通され、市長と面会する。一見、温厚そうな人、遠くから来たことへの労をねぎらう言葉、また一人から多数の琉球漆器の贈りものに、随分感謝された。そして「みなさんが、少しでも沖縄の歴史を知ってほ

しい。」と琉球王朝からの話を聞く。市役所から10分、美術館へ向かう。館長の出迎えがあり、案内され館内に。床面積3千3百㎡。広い中に展示室約1千㎡。「15世紀に成立した琉球王国は、中国、朝鮮、日本、東南アジア諸国との公益と文化交流を通して、独特な王朝文化をつくり上げた。特に中国からは、朝貢国として破格の待遇を受け、多くの技術が伝わり、その一つが琉球の漆芸だと考えられている。」

館長の説明をメモしながら順次行くと、優れた漆芸に目を見張る。線密な線彫の沈金や文様を描いた朱漆螺鈿など、驚く技法である。1609年に薩摩に征服されたが、その支配下でも螺鈿を中心とした独自の発達を遂げたこと。その展示室の一角に、画家が贈呈した漆器が並べられており、「ワァーすごい。こんなに歴史のあるお宝だったんだ。」と、みな集まって来た。世話役は「我が子に会えたような感じ。」と感激して見入っていた。

沖縄そばの昼食のあと、

糸満市を通り、「ひめゆりの塔」へ向かう。1945年に女学生たちが、お国のために看護師として動員され、負傷兵たちと耐え、さらに南端に追いつめられて行く。摩文仁の近くのガマ（洞窟）で若い命を散らした。草木の茂った中に1メートルくらいの口が開いている。木の柵から身を乗り出してみるが、中の様子は暗くてわからない。

16歳の少女たちが、手榴弾を持たされ、生死の境を毎日見つめている、極限の洞窟の生活。食糧も水もなく、医療品も乏しく、それでも一生懸命負傷兵の世話していた。塔の横には、白い鉢巻き、セーラー服にモンペ姿の当時の女学生の立像。向かい合っ

ていると自然に頭が下がりがり「あなたたちも、この平和な世の中に生きていたかったですよ。うね。」口の中で呟いていた。

摩文仁もかなりの激戦地だったという。移動のバスの中みな沈黙だった。

(次号に続く)



●改訂共通聖書日課

ルーテル教会では、3年周期の聖書日課を使用しています。便宜上、3年周期の第1年をA年とし、以降B年、C年、そして第4年は再びA年と言っています。教会暦は、2019年12月に待降節第1主日を迎え、新しい一年を歩み始めました。この機会に、藤が丘教会では「改訂

共通聖書日課」を採用することにいたしました。

1969年に出版された、カトリック教会の聖書日課は3年周期のもので、それへの関心は多くのプロテスタント教会に広がり、教派を超えて共通の聖書日課持ちたいという気運も高まり、北アメリカの15のプロテスタント教会で組織された委員会は、1983年に先のカトリックの聖書

日課に適応させた「共通聖書日課」を出版しました。(これを基本にしたものが、これまで私たちが用いていた聖書日課になります)

「共通聖書日課」を出版した後、実際に使用した教会各派から声を受け、検討を加え、1992年に「改訂共通聖書日課」として出版しました。

今回、改訂版を採用するに至った理由としては、①教会暦が新しい3

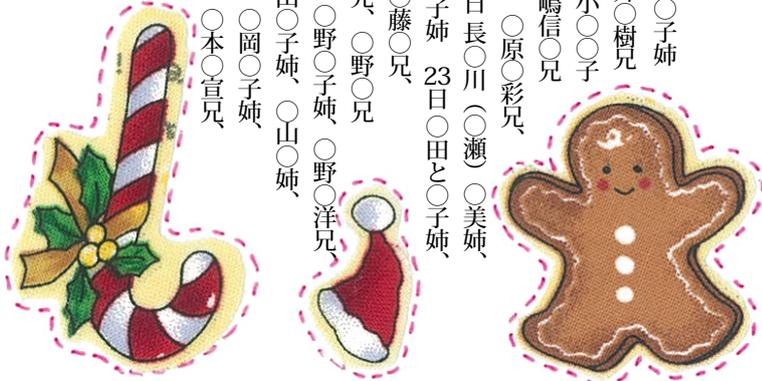
年周期に入るタイミングであること、
②2020年版教会手帳に改訂版が記載されることになったことなどがあげられます。

これまでの「共通聖書日課」と「改訂共通聖書日課」を比較して、どこが変わったのか、その理由は何かと考えることも興味深いですね。そのようなことを意識しながら、説教作りに励みたいと思っています。

今月の受洗記念日の皆さん

おめでとうございます。

- 2日 野〇之兄 5日 辺〇兄、見〇子姉
8日 基〇姉 12日 藤〇子姉 17日 井〇樹兄
19日 林〇太兄、山〇子姉、井〇姉、小〇子姉
20日 吉〇〇〇、杷子姉、小〇め〇み姉、嶋信〇兄
21日 田〇〇子姉、利〇子姉、井信〇兄、原〇彩兄
〇〇子姉、谷〇一郎兄、五十〇〇兄 22日 長〇川(〇瀬) 〇美姉
田〇〇姉、市〇〇江姉、元〇子姉、元〇子姉 23日 田〇〇子姉
松〇〇子姉、小美〇子姉、〇〇一兄、藤〇兄
〇〇子姉、伊〇〇兄、田〇子姉、野〇兄、野〇兄
24日 村〇子姉、原啓〇兄、谷〇子姉、野〇子姉、野〇洋兄
野〇洋兄、野〇希姉、山〇郎兄、山〇子姉、山〇〇姉
山〇兄 25日 木〇子姉、村〇子姉、岡〇子姉
原〇子姉、原〇太郎兄、江〇〇子姉、本〇宣兄
藤〇実姉、嶋〇美姉



喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
ローマの信徒への手紙 12章 15節
藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jelc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前10時半)

■教会の動向



11月の教会は、3日が全聖徒主日礼拝でした。すでに天に召された方々を覚え、共に礼拝をいたしました。藤が丘教会に関わってくださった多くの方々を思い、今があることを改めて感じ、感謝する機会となりました。礼拝後は、式文の学び、定例役員会が開かれ、笠原基輝さんが東京ルーテルセンター教会に転籍することが承認されました。6日は聖研がありました。10日は聖霊降臨後第22主日として礼拝が守られ、礼拝後に「創立記念礼拝」の案内状を発送しました。13日はお仕事会、久しぶりに参加された方もあり、楽しいひと時となりました。17日は、聖霊降臨後第23主日礼拝で、礼拝後に女性会、午後には東教区全役員協議会がありました。19日には、手仕事サロン、20日は聖研でした。26日は聖霊降臨後最終主日礼拝が守られました。礼拝後、信徒懇談会がありました。11月に初めて礼拝にお越しになったのは、〇木るみ〇さんでした。(佐藤)